

令和 5 年 5 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13422

研究課題名（和文）国連における科学技術促進と規制の動き：国家、NGO、民間部門、国連の関係

研究課題名（英文）Debates concerning Scientific and Technological Developments at the United Nations

研究代表者

足立 香（Adachi, Kaori）

東京大学・大学院総合文化研究科・学術研究員

研究者番号：70866714

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：国連総会は、科学技術開発を促す決議と規制を試みる決議を繰り返し採択してきたものの、促進すべき科学技術開発と規制すべき科学技術開発を明確に区別していない。これら決議の重複や矛盾から生じる問題を解決するために、国連が時代によって取り組みの方向性を変化させながら対応してきたことが、国連設立時からの国連総会文書の調査の結果、明らかになった。1990年代には、国際的規範作成を促進しようと試みるが、2010年代には、多様な非国家主体に呼びかけ、それらとの協力を進めようと試みている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際政治における科学技術開発についての既存の研究は、個別の科学技術がもたらす影響の考察が中心であった。科学技術開発に関する動向を、国連総会の記録をもとに、長期間にわたり俯瞰的に考察したことは、国際的議論の流れを包括的に把握することに貢献する。また、科学技術開発のような国家のパワーに直結する課題に国連がどのように取り組んでいるのかについて得た知見は、不安定な国際情勢を背景に、多国間協力が困難になっているなか、国境を越えた課題解決のために、国際制度が果たすことのできる機能についての考察に貢献する。

研究成果の概要（英文）：The United Nations (UN) General Assembly has repeatedly adopted resolutions that promote scientific and technological developments for peaceful purposes, while it has passed several resolutions that call for restricting scientific and technological developments for military purposes. These resolutions do not distinguish between science and technology for peaceful purposes and those for harmful purposes, and the relationship between military and civil technology is complicatedly evolving. Through a review of UN official documents, this study shows that the UN employed different tactics to address the problems that could arise from the contradicting resolutions related to scientific and technological developments. It attempted to play a facilitating role in creating a common set of rules in the 1990s, and in the 2010s, it tried to mobilize various nonstate actors to address them.

研究分野：国際関係論

キーワード：国際制度 国際連合 科学技術開発

1. 研究開始当初の背景

国際政治において、科学技術開発に関する2つの流れがみられる。ひとつは、科学技術のもたらす利点に焦点を当て、科学技術開発を積極的に推進する流れである。例えば、2015年、国連総会において採択された持続可能な開発のためのアジェンダに含まれる持続可能な開発目標（SDGs）は、科学技術イノベーションの推進をターゲットに含め、民間部門の積極的な貢献を促している。もうひとつの流れは、科学技術の持つリスクに注目し、科学技術を国際的に規制しようとする動きである。例えば、人工知能（AI）やドローンの軍事利用から生じる非人道的な結果が問題視され、非政府組織（NGOs）が中心となって、科学技術開発への国際的規制の必要性を訴えている。国連総会では、安全保障の観点から科学技術開発を規制すべきであるという決議が多数採択されている。国連総会決議において、促進すべき科学技術開発と規制すべき科学技術開発は、明確に区別されていない。

既存の研究では、科学技術開発を推進する文脈のなかで、科学技術を経済成長や社会開発に応用するための政策についての知見が蓄積されている。一方、科学技術開発を規制する文脈において、国際的規制をどのように進めてゆくかの政策的議論が深まっている。すなわち、科学技術開発推進と科学技術開発規制のそれぞれの流れのなかで、それぞれの方向性に沿った知識は蓄積されているものの、推進と規制の流れがどのように作用しあっているかについては不明な点が多い。また、国際制度がそれらの流れにどのように対応しているのかに関しても不明な点が多い。不安定な国際情勢と自律型兵器の使用を背景に、科学技術開発に関する国際的規範の必要性が指摘されているが、科学技術開発は、国家のパワーに寄与する政治的課題であるため、加盟国から限られた権限のみ与えられている国連が、科学技術開発について異なる選好をもつ主体を調和させることは困難であると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の2点である。

- (1) 科学技術開発を推進する動きと科学技術開発を規制しようとする動きが国連を通じて、国際政治にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。
- (2) 国連が科学技術開発について、異なる選好（推進と規制）を持つ主体をどのように調和させようとしているのかを明らかにする。

3. 研究の方法

科学技術開発に関する多様な国際制度（科学技術のための国際機関や、多国間および二国間協定など）の間に、促進すべき科学技術開発と規制すべき科学技術開発に明確な線引きがされていないことから生じる矛盾があることをふまえ、国際制度の重複や矛盾から生じる問題についての研究、主にレジームコンプレックスにおける国際制度の役割についての研究、を調査した。それらの先行研究が明らかにした国際機関が効率的なガバナンスを実現するために使用するアプローチを、本研究を行うにあたって援用した。具体的には、(1)異なる制度間の「調整」を行い共通のルールを作成する、(2)国際制度間で「譲歩」を行い、共通のルールに合意する、あるいは、(3)関連する多様な非国家主体（主にNGOs）を通じて、間接的にターゲットに影響を及ぼす、つまり「オーケストレーション」を行う、という3つのアプローチが指摘されている。

国際制度がレジームコンプレックスにおいて果たす可能性のある機能（調整、譲歩、オーケストレーション）をふまえ、国連が発表した科学技術開発に関する文書を分析した。研究開始時は、科学技術を推進するSDGsが2015年に採択されたこと、国連事務総長が科学技術の持つ利点とリスクを指摘し選好の異なる主体間の調和の必要性について言及した戦略を2018年に発表したことをうけ、2015年を起点として文書を分析することを予定していた。しかし、国際制度の重複と矛盾から生じる問題に着目したこと、また科学技術開発のための国際協力に関する国連総会決議が、1950年代にはすでに採択されていたことをふまえ、国連設立時からの総会文書を調査した。

4. 研究成果

国連総会の決議を設立時より考察することによって、国連の取り組みの方向性が時代によって

変化していることが明らかになった。国連が、国連事務総長のレポートを通じて、科学技術開発への取り組みの方向性を示した時期は、1990年および1994年と2018年になる。1990年代に発表された文書と2018年に発表された文書を比較すると、科学技術開発の平和利用のための国連の役割についての提案が変化していることがわかった。1990年代には、科学技術を評価するための指標作りやクリアリングハウスなどを提言し、国連が主導して重複する科学技術開発に関する国際制度を「調整」することを試みた。2018年には、多様なステークホルダーの協力を呼び掛け、共同で取り組むことが提案されており、「オーケストレーション」を行おうとしていたことがわかった。この背景には、国境を越えて活動するNGOsが増加したことや、焦点となっている科学技術が、アクセスが限定的である核から、AIやドローンなど、民間からアクセスしやすい科学技術へと変化したことがあった。

国際政治における科学技術開発に関する既存の研究は、個別の科学技術がもたらす影響の考察が中心であった。不安定な国際情勢や、AIやドローンの軍事利用から生じるリスクに関して議論が活発に行われていることをふまえ、科学技術開発に関する動向を、国連総会の記録を使い、長期間にわたって俯瞰的に考察したことは、国際的議論の流れを包括的に把握することに貢献する。

今日の不安定な国際情勢をうけ、多国間協力が困難になっているなか、科学技術開発のような国家のパワーに直結する政治的な重要課題に国連がどのように取り組んでいるのかについて得た知見は、国境を越えた課題解決のために、国連が果たすことのできる機能についての考察に寄与する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 足立香
2. 発表標題 Debates on New Technologies in the United Nations
3. 学会等名 Japan Association for Human Security Studies Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------